

2017

# テーブルウェア

Tableware

AD18 児玉 有理  
指導教員 小西 均

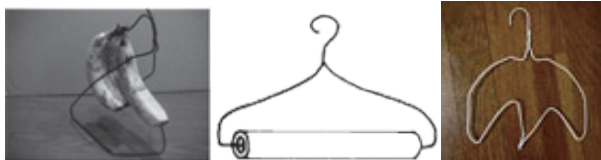
## 1. 研究目的

多くのエコは何か物を購入する際に素材や環境に配慮した製品が良くあるものだと思われる。そこで、家にある身近なもので「エコ」を感じられるものを自分の手で作成できるようにする事を今回の研究で探る。

## 2. 調査と分析

クリーニング屋に出すとYシャツなどに必ずと言っていいほどついてくる針金ハンガー。近年のハンガーは再利用、再使用が可能なプラスチック製が主流になってきている。それに比べると針金は再利用が困難であり、1本辺りを支払い回収するクリーニング屋もあるが、そのハンガーは廃棄処分されてしまう。

その針金ハンガーを”モッタイナイ”と感じる主婦などが中心として有効活用法をインターネット等で掲載されているのをよく目にし、どれも機能性は十分にあるが、デザイン性などの形の美しさが欠けていると思われる。



## 3. コンセプトの立案

「自分で作れるエコ」

家にある針金ハンガーで力のない子どもや大人の女性にでもできるようなテーブルウェアをつくることを可能にする。

## 4. デザイン展開

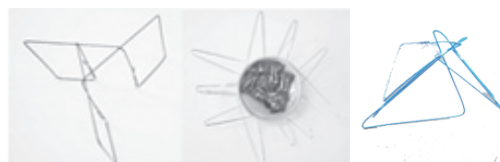
当初はハンガー全体を切断し、形を作り、組み合わせ、ゴム管などの部品で接合し制作していこうと考えていたが、子どもや大人の女性の力では硬くて丈夫な針金をペンチで切断するのは容易ではないということが分かり、切断しない方法を考えた。

ハンガーを切断しない方法として、

- ①そのまま形状を維持して成形する方法
  - ②一部を曲げて成形する方法
- の二つを提案する。

第一に子どもがけがをしないよう安全性と手軽さを考慮すること。また、テーブルに置いても恥ずかしくないようなデザイン性と安定性を作り出すことに着目点をおいた。

まず、ハンガー一つひとつにある規則性を持たせることにより、シンメトリーの形にして美しさと安定性を持たせる。また数種類の形を提案することによりバリエーションを豊富にし飽きのこないデザインにさせる。



▲ハンガーを切断し制作した作品

多くの人々に伝達する方法として、説明書を書くことにより可能にする。A5サイズは持ち運びが可能であり、かばんの中などに収納する際にも邪魔にならないと考えた。

## 5. 完成図



## 6. 結論

検証を行った結果、見た目だけで判断して頂いた際は難しそうなどと言われたが、説明書を見ながらだと仕組みが分かり楽しいと言う意見が多かった。

だが組み立てている最中に滑って外れてしまい、子どもに危険な可能性があり、ハンガー全体にひもなどを巻きつけたりなどの滑り止め効果を施す等の改善の余地がみられた。

## 7. 参考文献

MOTTAINAI Lab, 制定 2007/5  
<http://blog.excite.co.jp/mottainai-staff/12516235/>